

●今年玉水橋上流（右岸）300m上流に将棋頭型水制工を設置 2月7日（土）

2月7日（土）は冬型の気圧配置で厳しい寒さになるだろうと報道されて東北や近畿北部では大変な降雪がありました。また8日（日）は朝には降雪があり、京都南部でも積雪に見舞われるという天候になりました。しかしこのような中でも木津川で予定していました将棋頭型水制工の設置は中止することではなく、前準備（位置出し、運搬通路確保、竹蛇籠運搬 杭打ち45本、そして栗石運搬）がすべて完了されていましたので、20人が9時過ぎに集合して行われました。この日ご集合いただいたのは摂南大学の石田先生と2名の学生（谷口、原之村）さん、そして京都大学から（庄内、藤井）と亀岡の中川さん、長岡京から遠山さん、河川財団の神崎さん、里山の会から森島、有田、播川、太田、金田、中沢、吉村さんと竹門先生が来られ、続いて寺村さん家族4人が駆け付けてくださいました。総勢20人が力を合わせて11時過ぎには栗石の投入の一部を残して完了できました。そして記念撮影を流木対策の木杭に登って行いました。



2月7日(土)撮影

2月8日（日）には7時ごろから雪が舞い落ちました。9時ごろには銀世界となり、10時頃には吹雪となりました。この日、九州・福岡県から田中三次郎商店の田中智一郎社長がご参加をいただきました。ご参集くださったのは上の写真のメンバー方など14人（中沢さん家族4人、堀さん親子2人など）で、震えながら一部作業として残っていた栗石詰めを行って昼食前に残石処理の作業を完璧に終わることができました。寒い中、竹門先生が淹れて下さったコーヒーをいただいて解散しました。2日間に渡った設置作業は腹を決めた皆さんの底力が遺憾なく発揮された素晴らしい取組、記録に残さねばならない作業でした。



木津川出張所や淀川河川事務所の強力な理解が無ければこの作業は成功しなかったと思われま。位置出しから始まった蛇籠の配置、栗石の配分、運搬通路の確保等、通常ではなかなかできない作業を短期日でやり切っていただいたことに深く深く感謝いたします。また里山の会のメンバーには9月の竹蛇籠製作指導をした9月27・28日の作業から始まった長丁場（6ヶ月）の中、本当にご苦労さまでした。

今回は設置位置を変更することになり、新しい取組も沢山あり工夫を凝らして成功させました。

●湯川幸子さん発刊の「雑木林の詩」80冊を寄贈いただきました。

今年で90歳になる湯川さん(里山の会結成呼びかけ人)が国民学校3年生の時、疎開先で田舎暮らしをさせられた折にコレ食べられるかなと野の草花を口に含んだ経験によって植物に関心を持ち続け、花や実について知らず知らずに深められ絵心が養われ心に映る言葉を表して来られた冊子が完成できました。この度、居住地での地域説明会開催に当たってご参加いただいた方への感謝の気持ちとして差し上げてくださいと届けてくださいました。数量に限りがありますが希望者には感謝を込めて贈呈させていただきます。



●一休が丘公民館で地域説明会を15日(日)10:00から開催～15:00閉会です。

多数の皆さんのご来場をお待ちしております。駐車場は狭いので徒歩でのご来場をお願いいたします。

●炭焼き体験の原木一窯分が何とか調達できたのではないのでしょうか。

2月10日(火)太田、森島、金田、堀さんが大奮闘していただきました。

3月14日(土)に炭窯に着火予定です。

2月7・8日 竹門先生から配布していただきました資料です (随時掲載)

2024年度 伝統的河川工法を用いた河川環境の保全活動
～「川が川をつくる」のを助けるために～

将棋頭型竹蛇籠水制の設置活動報告

2024年4月14日の様子

主催：きょうと生物多様性センター
協力：やましろ里山の会・自然環境保全京都府ネットワーク
京の川の恵みを活かす会・京都大学防災研究所水資源環境研究センター
資料作成：京都大学工学研究科D1 藤井天真・大阪公立大学客員研究員 竹門康弘

将棋頭とは

川の流れを分岐させて流路を複列化させるには、伝統河川工法の一つである将棋頭が役立つと考えられる。

将棋頭は、武田信玄による御勅使川(みだいがわ)の治水事業で使われた工法で、将棋駒頭形の石堤によって流れを二分して堤防内の耕作地等を守る役割を果たした。

木津川将棋頭型竹蛇籠水制の設置概要

やましろ里山の会は、2024年2月17日に木津川の砂州の地形を変え水辺環境を多様化するために、15-16kp右岸砂州の低水路に将棋頭型水制を設置した。その後、2024年3月26日の出水で水位が3m上昇した結果、将棋頭の内部が2m近く洗掘されて人の背丈ほどの池が形成された。

2024年9月8日にこの池の調査したところ、オイカワ、カワヨシノボリ、ヌマチチブ、ギギ、ミナミメダカ、ボラなどの魚類や、コオナガミズスマシやケベリマメゲンゴロウなどの水生昆虫が確認された。

これらの成果を踏まえて、2024年度には砂州のワンド・たまりを増やすために、将棋頭型水制を増設することにした。ここでは、将棋頭型水制の役割について概説し、木津川15-16kp右岸砂州の中聖牛設置による地形変化や将棋頭型水制による地形変化を示した上です。(文責 竹門康弘)

2024年2月17日に設置した将棋頭水制

2024年4月14日の状況

竹蛇籠水制設計図

材料図

- 竹蛇籠: 長寸 6.0m, 内径 45cm
- 木杭: 2025年 長寸 2.0m, 直径 15-17cm; 2026年 長寸 2.5m, 直径 16-18cm

竹蛇籠水制上面図: 6.0m

竹蛇籠水制側面図

2025年: 0.9m, 1.1m
2026年: 1.0m, 1.5m